

19. 耳鼻いんこう科（選択）

1. 一般目標（G I O）

将来の専門性にかかわらず、必要な耳鼻咽喉疾患の診断と、治療の基本的知識および技能を習得し、医師として望ましい姿勢、態度を身につける。

2. 具体的目標（S B O s）

（1）医療面接

- 1) コミュニケーション・スキルを身につけ、患者と良好な人間関係を確立でき、受診背景を把握できる。
- 2) 患者の病歴の聴取、その他精神的、社会的情報の聴取、記録ができる。
- 3) 患者、家族への適切な指示、指導ができる。

（2）診察法、検査、手技

頭頸部の診察（外耳、鼓膜、鼻腔口腔、咽喉頭の観察、甲状腺の触診を含む）ができ、記載できる。

1) 診察法

額帯鏡による耳鼻咽喉の視診 ファイバースコープ、その他光学器械による耳鼻咽喉の視診 頸部視診、触診

2) 検査

① 自ら施行でき、結果を解釈することが求められる検査

- （ア）頭位眼診検査、頭位変換眼診検査
- （イ）唾液分泌検査
- （ウ）嗅覚検査
- （エ）指導医のもとで施行し、結果を解釈することが求められる検査
- （オ）顔面神経機能検査
- （カ）温度眼診検査
- （キ）電気眼診計検査
- （ク）超音波検査
- （ケ）唾液腺造影検査

② 結果の検査を解釈することが求められる検査

- （ア）純音聴力検査
- （イ）インピーダンスオージオメトリー
- （ウ）聴性脳幹反応

(エ) 画像診断 (レントゲン、CT、MRI)

3) 基本的手技

① 処置

(ア) 耳鼻咽喉頭の一般的処置

(イ) 耳管通気処置

(ウ) 頭頸部術後症例の包交

(エ) 気管切開術後症例のカニューレ交換

② 観血的処置

(ア) 鼓膜穿刺、切開

(イ) 扁桃周囲膿瘍の穿刺、切開、排膿

(ウ) 鼻出血止血

(エ) 鼻骨骨折の整復

(オ) 上顎洞の穿刺、洗浄

(カ) 頸部膿瘍の穿刺、切開

③ 観血的検査

(ア) 超音波ガイド下の細胞診

(イ) 頭頸部領域の組織診 (生検)

(3) 症状、病態への対応

- 1) 問題点解決のための診療計画を立案できる。
- 2) 入退院の適応を判断できる。
- 3) 耳鼻科一般の基本的治療ができる。
- 4) 救急疾患の初期治療ができる。
- 5) 症例を要約し、診療録を記録し、問題提示ができる。

3. 方略

OJT (on the job training)

- (1) 毎朝 8 時 40 分からの病棟診察を上級医とともに行う。
- (2) 外来診察を行い、症状、病態を把握し、上級医とともに診断に必要な検査、処置を行う (基本的手技は常時含まれる)
- (3) 手術日 (毎週火曜日) は上級医の指導のもと、簡単な局所麻酔下手術、全身麻酔下の気管切開術を行う。喉頭直達鏡では喉頭の展開の方法を学ぶ。また、全身麻酔下の頭頸部腫瘍手術の助手を行う。

4. 評価

評価については、形成的評価、総括的評価の2つの視点から行う。

総括的評価はEPOC2を用いて評価する。